



4月号

令和8年度

編集・発行
社会福祉法人東京援護協会
板橋区立三園福祉園
板橋区三園 2-9-16
電話：03-5383-9587

三園福祉園の広報誌「クローバー」は、登園を利用されている方々・ご家族をつなぐ情報誌として毎月発行しています。この「拡大版」は、地域の方々にも当園の活動を知っていただき、地域に根差した施設になればという思いを込め、年3回発行するものです。

諏訪間施設長挨拶

令和8年度が始まりました。今年度は板橋特別支援学校から1名と志村学園から2名の新入園者を迎え入れ総勢33名でのスタートとなります。新たな出会いの季節には、その年その年でいろいろな風景と一緒に刻み込まれた思い出が数多くあります。

右の文章はちょうど2年前の4月、当時の所属施設の広報紙に載せた文章です。

駅まで向かう道中で毎朝見かけていた親子の姿がいつの間にか私の中で日常の風景として定着していて、ありふれた日々の何でもない出来事がそれだけでも大切な時間の積み重ねであると気付かせてくれる存在となっていたのです。

そしてこの話には続きがあります。

つい先日の日曜日、公園で元気に駆け回っている小学生たちの中に見覚えのある姿があり、最初は誰だっけ？とぼんやり考えていたのですが、しばらくしてあの子だと気がついたときの感動。約2年ぶりに見る姿に「大きくなったなあ」、「いっぱい友だちが出来たなあ」など次々にいろいろな想いがあふれてきて、もはや孫の成長を見ているかのような気分でした。

日々報じられるニュースの中には不安や悲しみを伝えるものも多くありますが、身近な日常には幸せや喜びもたくさんあります。今の暮らしが穏やかに続いていく、そんなことを願いながら人と人が関わり合うことによって生み出されるものの確かな手応えを大切にしていきたいと思えます。三園福祉園の活動を通じて、利用者みなさん・ご家族みなさんと幸せや喜びを共有できるように職員一同は誠意と熱意をもって頑張っています。

今年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

数年前から朝の通勤途中に出会う親子がいます。お父さんがおそらく仕事に行く前に保育園に連れていくのだと思うのですが、最初に気づいたのは新型コロナが世界を変えてしまう前のことでした。まだ1歳になるかならないかの子どもをだっこひもで抱え保育園へと入っていく男性の姿を見かけ、同じように自分も出勤前に息子を保育園に送っていた頃のことを思い出しました。



それからほぼ毎日のようにその親子とすれ違うたびに、名前も知らない子どもの成長が私のちょっとした楽しみになりました。最初はお父さんがだっこ、そのうちお父さんが運転する自転車のチャイルドシートへと変わっていき、何年かして手を繋いで一緒に歩くようになると、並んで歩く二人の姿にえもいわれぬ感動をしていました。



張り切って歩きたがる日もあれば甘えるようにだっこをせがむ日もあり、日によって困ったような嬉しいようなお父さんの表情も印象的でした。



だっこの頃は性別が分からなかったのですが、歩き始めた頃から可愛いカラフルな服を着るようになり「女の子だったのか」と知ったときのこと、雨の日に長靴でわざわざ水たまりを選んで歩くのを見て「楽しそうだな」と思ったこと、初めて子どもの声を聞いたときに「ああ、喋ってる!!」驚いたのと同時に嬉しくなったこと、理由は分からないけど何やらお父さんに対しぶんぶん怒っているようだったので、こっそりお父さんを応援したこと、緊急事態宣言の真っ只中に数日見かけなかったときは「コロナかな？体調は大丈夫かな？」と勝手に心配し、数日ぶりに見かけたときは人知れずガッツポーズしていたことなど、いつの間にかこの親子がいろいろな感情をもたらしてくれる存在となっていました。



そしてこの4月、親子の姿を見かけることはなくなりました。桜の季節に真新しいランドセルを背負って期待を胸に新しい生活が始まったのだらうと思っています。

この数年間、朝のほんの数分だけ見かける光景が私にとって意外と大きな積み重ねとなっていたことに気がつきました。そしてそれは日常が平穏であることのおかげをあらためて感じさせてくれることだったのです。



事業計画(令和8年度)

運営方針

- 法人理念に則り、利他の精神を持って運営にあたり、施設が地域に貢献していけるよう努めます。
- 利用者の尊厳が確保され、豊かで輝きのある人生を送ることができるよう、福祉施設として誠意と熱意をもって運営に取り組みます。
- 「存在有意感」(どのような人でも、そこにいるだけで意味がある)を職員全員が念頭におき、一人ひとりの人格と自己決定を尊重した支援を行います。

重点目標

▶ 信頼される施設づくり

研修参加や福祉に関する社会情勢の把握等により、職員の支援力向上とチーム力の強化を図り、安心して安全な質の高いサービス提供を目指します。

▶ 意思決定支援

活動プログラムに利用者の意見を積極的に取り入れることで自己選択の機会を提供し、ICT機器を活用することによって、より多くの意思表示を促していきます。

▶ 社会参加および地域貢献の取り組み

福祉園を知ってもらうだけでなく、地域の中で福祉園の存在価値を高めていけるような取り組みを行っていきます。

入園式～新しい仲間が増えました！



満開の桜が咲く中、令和8年度三園福祉園の入園式が行われました。今年度はこもれびグループ2名（重心）、アドベンチャーグループ1名（生活）の計3名が入園。

新入園の方の紹介、歓迎の言葉、お祝い品の贈呈等を行い、最後はお祝いの歌として2名の利用者さん代表が「100%勇気」をプレゼント。楽しい入園式になりました。

